第３回　　幼稚園教諭・保育士合同研修会　　（７月９日　池上会館　132 名参加 ）

テーマ　　「絵本を通じた言葉の育ちと学び」

國學院大学　人間開発学部 子ども支援学科　教授　吉永 安里（よしなが　あさと）先生

架け橋期における言葉の育ち

《 保育園・幼稚園 》

▹「言葉」における読みに関する指導

・ねらい：日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、先生や友達と心を通わせる。

・内　容：絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結びつけたり、想像を巡らせたりするなど、楽しさを味わうことによって、次第に豊かなイメージを持ち、言葉に対する感覚が養われるようにすること。
⇒ 絵本や物語の読み聞かせによって行われる。

《 小学校 》

▹国語科における読みに関する指導

・知識及び技能：言葉の特徴や使い方に関する事項（言葉の働き、話し言葉と書き言葉、漢字、語彙、文や文章、言葉遣い、表現の技法、音読・朗読）、情報の扱い方に関する事項、我が国の言語文化に関する事項（伝統的な言語文化、言葉の由来や変化、書写、読書）

・思考力、判断力、表現力等：話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと。

★　幼児教育が国語科につながっている。

グループワーク ～ 絵本を通して育つもの ～

保育者が日頃、園で読み聞かせをしている絵本を持ち寄り、こどもに読み聞かせをしている想定で、お互いに読み聞かせをして「絵本を通して育つもの」について考えた。

▹どうしてその本を選んだのか？
▹どんな子にその本を読んであげたいか？
▹こどもたちにどんなことを伝えたいか？
▹こどもたちはその本のどんなところを面白がるか？
▹どんな場面でその本を読みたいか？
▹どんな環境設定で読んでみたいか？
▹どんな風に読んでみたいか？
▹どんな風に楽しみたいか？

絵本を分析してみよう

1　絵	絵本の向きと登場人物の向き、ページ配置・事物の位置、色彩、明暗、枠・はみ出し・断ち落とし
2　人物	登場人物、中心人物、人物像、呼称表現、人物の変容
3　表現	地の文・会話文、心情表現、情景描写、リズム、象徴、表現方法（対比・比喩など）、文体と効果（話法、文末表現など）
4　構造	設定（人・時・場所）、場面、伏線、あらすじ、出来事・事件、全体構成（起承転結）、クライマックス（山場・転換点）
5　視点	語り手（話者）、視点人物（一人称・三人称）、視点の転換、視点の効果

《 分析からできる工夫など 》

・こどもの視線や集中を途切れさせないよう、絵本の向きや形状、大きさなどにより、絵本を持つ手やページのめくり方を工夫する。

・「言葉を忠実に読む」ことにとらわれず、絵の変化を楽しむ。⇒ 視覚効果。

・同じフレーズを繰り返すセリフやリズムを大切にした表現。⇒ 低年齢児に効果的。

・０歳～・・・「モノ」から「絵本」へ。安心できる人と絵本を見る。

・１・２歳～・・・絵本から広がる世界。絵本の言葉⇔こどもの言葉。生活経験⇔絵本。

・３歳～・・・物語の世界と遊び。絵本の世界に浸って物語世界で遊ぶ。

・７歳～・・・物語世界と現実世界・言葉の自覚的な学び。

★　こどもの年齢や状況を意識して絵本を選び、保育者も一緒に楽しんでほしい。

研修生の感想から

・絵本について、幼児教育と小学校教育の接続の観点からお話ししていただき、幼児期の終わりまでにどのように絵本を読んでいったらよいのかを具体的に知ることができました。５歳クラスでは意識しながら絵本を選び、読んでいこうと思います。

・無意識に絵本を選んで読むことがあったので、今後はもっと意味を考えながら、読み聞かせをしていきたいです。また、絵本はことばを学ぶこと、人とつながることや小学校への学習につながっていくなどの意味があることが分かりました。今後機会があれば、小学校の先生たちとも話し合いたいと思いました。